

Corporate Profile

会社案内

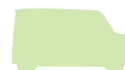


らしく、ともに、軽やかに

Light you up



DAIHATSU



◎CONTENTS



2～ トップメッセージ

3～ スローガン・ビジョン / 中長期経営シナリオ

5～ ダイハツの概要

9～ ダイハツのモノづくり

11～ ダイハツのコトづくり

13～ 会社データ

◎トップメッセージ

「モノづくり」と「コトづくり」
この両輪のスパイラルアップで、
ダイハツブランドを進化させてまいります



ダイハツ工業株式会社
取締役社長
奥平 総一郎

私どもダイハツは、2017年3月に今後の大きな柱となる中長期経営シナリオ「D-Challenge 2025」を公表いたしました。その中で、「モノづくり」と「コトづくり」、この両輪のスパイラルアップで、ダイハツブランドを進化させていくとお伝えしました。
現在、このシナリオの「実行と実現」に全社一丸で取り組んでおります。「ダイハツらしさ」を磨き上げる

ことで、トヨタグループにおける存在感を高め、トヨタグループの発展に貢献してまいります。さらに、モノづくりにおけるDNGA(DAIHATSU New Global Architecture)の実現に向けて、軽を基点としたクルマづくり、すなわち「小から大」のクルマづくりに取り組んでまいります。

「モノづくり」の軸(DNGAの実現)について

①	さらなる 良品廉価の追求	良品廉価の追求によって、新プラットフォームを開発し、環境性能や安全性、快適性を大幅に向上させながら、圧倒的な低コスト化を推進し、お客様が最も求めやすい商品といたします。
②	次世代SSC (シンプル・スリム・コンパクト) の確立	SSC(シンプル・スリム・コンパクト)は、品質向上・人材育成につながる「ダイハツの心・精神」です。これを継承しながら、低コスト、高品質な生産システムを進化させ、ダイハツの競争力をより一層強固なものいたします。
③	先進技術の開発	キーワードは「先進技術をみんなのものに」です。スマートアシストに代表されるような技術をすべてのお客様に、求めやすい価格で提供することがダイハツの役割であると考えています。

「コトづくり」の軸について

「コトづくり」では、「お客様や地域の方々との接点拡大」を主眼とした活動に取り組み、人と人とのつながりを今まで以上に強くしてプラスαのサービスを提供することで、販売強化につなげてまいります。

「世界に無くてはならないブランド」を目指して

以上の取り組みを通じたダイハツブランドの進化について、その方向性を示すため、新たなグループスローガン「Light you up」を掲げました。
この考えのもと、グローバルな市場の動きと技術変化を見据えながら、ローカル(地域)のお客様一人ひとりを最優先した商品やサービスを提供いたします。
また、社員一人ひとりを「自分が今やっている仕事

は、世界の誰かを輝かせ、その輝きで自分がもっと成長できるのか」と常に考え、ダイハツらしさを追求できるように人材に育ててまいります。
これらの取り組みを実行することで、今以上に「ダイハツらしさ」を進化させ、「世界に無くてはならないブランド」に成長させてまいります。

◎スローガン・ビジョン／中長期経営

シナリオ

Light you up

らしく、ともに、軽やかに



「Light you up」の「Light」には、「光」「軽やかさ」の2つの意味を持たせています。
お客様一人ひとりを照らし、きめ細やかな商品やサービスを実現することで、輝いたライフスタイルを提供すること。
暮らしや環境への負担が少ないスモールカーで軽やかな気持ちを提供すること。
この2つのミッションに、今後も変わらずに取り組み続けることを決意し、
その想いを新たなスローガンとして表現しました。

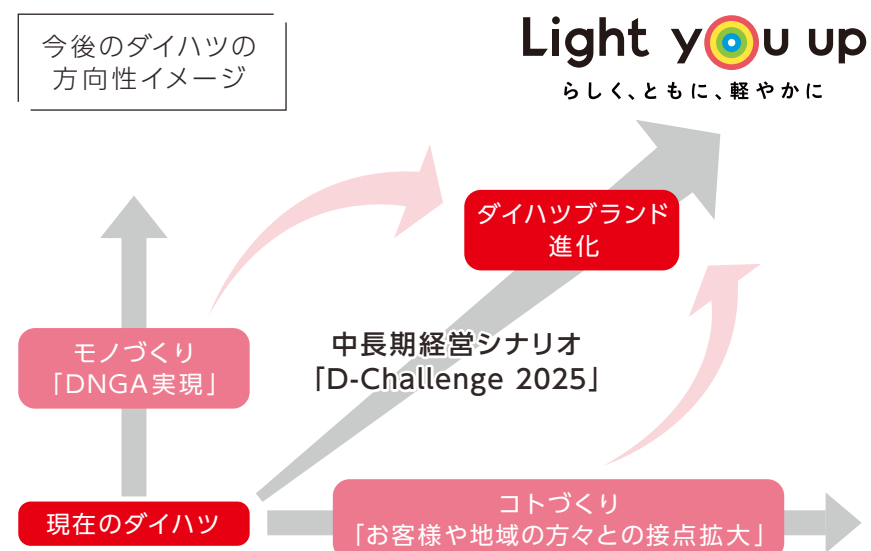


ダイハツグループは、世界中の一人ひとりが

自分らしく、軽やかに輝くモビリティライフを広げます。

中長期経営シナリオ

ダイハツは、2017年から2025年までの中長期経営シナリオ「D-Challenge 2025」を策定しました。「Light you up」を指針としながら、「モノづくり」「コトづくり」を主軸に事業を推進し、ダイハツブランドの進化を目指します



モノづくり

お客様に寄り添う姿勢を今後も貫き、
DNGA (DAIHATSU New Global Architecture) を実現
お客様に安全・安心・安価で、多彩な、易しいクルマをお届けいたします

コトづくり

お客様や地域の方々との接点拡大を主眼とした活動をグループで展開いたします。また、人と人とのつながりを今まで以上に強くして、プラスαのサービスを提供いたします

詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.daihatsu.com/jp/company/scenario.html>



◎ ダイハツの概要「国内」「海外」「受託・OEM」を柱に事業を展開

国内

軽自動車を中心にコンパクトカーまで、 スモールカービジネスを展開

ダイハツは、「低燃費」「低価格」「省資源」を追求し、魅力あるクルマづくりにまい進しています。

生産面では、「軽自動車ですらに収益の上がるビジネスモデル」を確立するため、生産工場のSSC(シンプル・スリム・コンパクト)化や調達改革に取り組み、あらゆる面から軽自動車にふさわしいクルマづくりに取り

組んできました。さらに、「安全性」「多様性」についても重視し、お客様視点のクルマづくりを徹底的に追求しています。

また、地域に密着した販売活動によって、お客様とのコミュニケーションを強化すると同時に、お客様の声を次のクルマづくりへ反映させています。



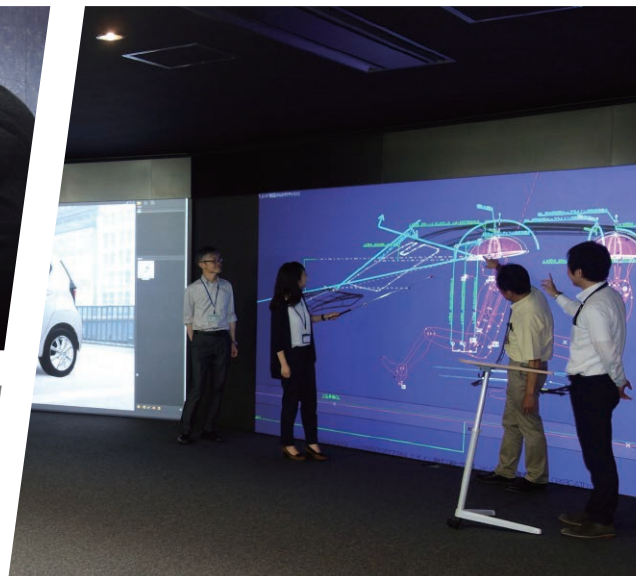
①企画・デザイン



③生産 ※写真は、エンジン・ミッションの搭載工程



④販売店舗



②開発・設計



⑤販売

海外

インドネシアとマレーシアでの現地生産を拡大 その国のベストを目指したクルマづくり

ダイハツの海外拠点であるインドネシアとマレーシア。この2つの国は、東南アジアの隣国でありながら、道路環境や世帯構成、そしてクルマのデザインの好みも大きく異なります。

その国のニーズに合わせたクルマを、その国の工場

で、その国の人がつくる。それが、ダイハツの海外展開の特長です。

これからは、トヨタグループの中で、新興国小型車事業を牽引する役割を任せられ、ASEANを中心に、様々な地域に向けたクルマの開発を行います。



ADM R&Dセンター開所式の様子(インドネシア) ※2017年当時



現地ニーズを反映した開発(インドネシア)



現地ニーズを反映した開発(マレーシア)



マイヴィ発表会(マレーシア) ※2017年当時

◎ ダイハツの概要「国内」「海外」「受託・OEM」を柱に事業を展開

受託 OEM

国内では、トヨタとSUBARUへ軽自動車やコンパクトカーを供給
海外でもトヨタ向けに、様々な車種を供給しています

当社は、トヨタグループの中でトヨタ自動車株式会社（以下トヨタ）と株式会社SUBARU（以下SUBARU）向けにバラエティに富んだ車両・エンジンを供給しています。

トヨタ車の受託生産を1969年に開始して以来、トヨタへのOEM供給、さらには2009年からSUBARU向けにOEM供給をするなど、事業を拡大してきました。

国内における受託生産車やOEM車に限らず、海外で

の車両供給については、インドネシアでのトヨタとの共同開発車「アバンザ」や、2013年からトヨタへOEM供給を開始した「アギア」など様々な車両があります。

今後も、生産体制の整備のほかトヨタグループ内での連携のもと、ダイハツの独自性を発揮することで、グループの発展に寄与していきます。



トール（ダイハツ）、ルーミー・タンク（トヨタ）発表会 ※2016年当時



シグラ（ダイハツ）、カリヤ（トヨタ）発表会 ※2016年当時

軽自動車とダイハツ

自動車が高級品であった1950年代、「一家に一台」を目指して軽自動車は生まれました。
お手頃な価格で、細い路地でも運転しやすい軽自動車が各社から発売され、広く普及していきました。

今では、特に地方部で、軽自動車が無いと生活ができない地域がたくさんあります。経済性も良く、小回りが利く軽自動車は、日本の人々の暮らしを支えてきました。ダイハツが日本のお客様のために培ってきた「軽自動車をつくるノウハウ」は、今では海外のコンパクトカーへも生かされ、ダイハツの競争力の源泉となっています。



ダイハツの原点

明治の学者や技術者の手で生まれた
国産発動機

明治・大正期

ダイハツの起源は1907年（明治40年）までさかのぼります。当時輸入に頼っていた発動機（エンジン）を国産化すべく、大阪高等工業学校（現在の大阪大学工学部）の学者や技術者が中心となり、大阪で「発動機製造株式会社」を興しました。吸気ガス発動機から始まり、小型ディーゼルエンジンなどを開発、生産したほか、当時は鉄道車両用機器なども製造していました。

日本の近代工業化が進む中、自分たちの手で発動機をつくろう、日本の産業に貢献しようという学者や技術者の熱い思いが、現在のダイハツの礎となっています。



完成当時の本社工場



6馬力吸入ガス発動機



旧大阪工場全景



HA型ダイハツ号

爆発的ヒットを飛ばした軽三輪自動車「ミゼット」
そして軽自動車、小型車へ

昭和戦後期

1951年（昭和26年）に現在の「ダイハツ工業株式会社」に社名を変更した当社は、モータリゼーション黎明期の1957年（昭和32年）に創立50周年を迎えました。この年発売した軽三輪車「ミゼット」は、使いやすさや経済性が人気を博し、商店や小口配送業者の間で大ヒット。インドネシアやタイなど多くの国にも輸出され、人々の暮らしを支えました。

その後、現在でも販売している軽商用車「ハイゼット」や、小型車「シャレード」など、数々のスモールカーを世に出し、小さいフルマのエキスパートとして現在に至ります。



初代シャレード



ミゼット（MP5型）

◎ ダイハツのモノづくり

1907年の創業以来ダイハツは、お客様に寄り添うクルマづくりを目指し、軽自動車からコンパクトカーまでスモールカーでお客様の暮らしを支えてきました。

その原点となるのが、現地現物でお客様のニーズや困りごとを確認し、1ミリ・1グラム・1円にこだわるモノづくりへの姿勢です。低燃費・低価格、安全・安心、環境にやさしいなどダイハツならではの『良品廉価』なクルマづくりをこれからも磨き続けていきます。

さらにこれからは、電動化や自動運転、コネクティッドなどの先進分野でも、「先進技術をみんなのものに」をキーワードに、これらの技術を多くのお客様に届け、モビリティライフを豊かにする。その思いでこれからもダイハツのモノづくりは進化を続けます。

低燃費・低価格

軽自動車の本質は「低燃費・低価格・省資源」。この考え方を具現化するにあたり、2011年に実現した技術が「e:Sテクノロジー」です。燃焼効率の向上やエネルギーロス低減など、コンベンショナルな技術を磨きあげることによって低燃費を実現。また、骨格部材の配置見直しや、構成部品を可能な限りストレートにすることによる補強部材の削減といった設計素質の向上で、部品点数を減らしながら高性能を実現するなど、良品廉価なクルマづくりのベースを確立しました。これらの考え方は、その後、国内／海外の小型車まで、スモールカー全体での良品廉価なクルマづくりへとつながっています。



安全・安心

スマートアシストは、ダイハツが2012年に軽自動車ですべての衝突回避支援ブレーキを採用し、その後多くの車種に展開した技術です。自動ブレーキなどの先進技術をより多くのお客様にお届けするために、軽自動車にふさわしい機能と価格を追求しました。その後も、お客様の要望に細やかにお応えすべく進化を重ね、スマートアシストⅢでは、世界最小*のステレオカメラを採用。スモールカーにふさわしいコンパクトな部品構成とすることで、価格の上昇を抑えながら、性能向上を実現するなど、より多くのお客様に、さらなる安全・安心をお届けできるように取り組んでいます。



※2017年11月 ダイハツ調べ

先進技術

今後の先進技術開発において、ダイハツの使命は「先進技術をみんなのものに」することです。スマートアシストのように、お客様の暮らしに役立つ先進技術をお求めやすい価格で提供し、安全・環境・つながりあう社会など様々な分野で普及させていきます。

例えば安全分野では、すべてのお客様が自由に安心して移動できるアシスト機能の充実を目指しています。環境分野でも、ダイハツが得意とするパッケージング技術を生かし、日常生活に密着したスモールカーにふさわしく、多くの方の手に届きやすいEVやHVの開発を進めています。



第45回 東京モーターショー出展車

国内

2011年
e:Sテクノロジー
初搭載モデル
ミライース



e:Sテクノロジーの
ポイント

徹底的に効率を
追求して低燃費を実現

2013年
タント



2014年
ムーヴ



2016年
トール



2017年
ミライース



e:Sテクノロジーを進化させ、各車に展開

e:Sテクノロジーをベースに、各国の車種へ展開

海外



2013年
アイラ(インドネシア)

2014年
アジア(マレーシア)

2016年
シグラ(インドネシア)

2016年
ベザ(マレーシア)

SSC (シンプル・スリム・コンパクト)

お客様により良い商品をお求めやすい価格でお届けする為には、高品質とコストダウンの両立が必要です。その鍵となるのは、ダイハツ独自のコンセプト「SSC(シンプル・スリム・コンパクト)」です。ダイハツ九州大分(中津)第2工場は、工場面積を従来の半分にするなど設備の簡素化や、作業の集約を図り、本格的にSSCを導入した工場です。工場がコンパクトになったことで、隣の作業者の様子が見え、日本ならではの助け合いの精神が芽生え、それらが不具合を減らし、質の高いモノづくりの風土が生まれました。

このノウハウは、日本国内はもとより、海外にも展開し、インドネシアやマレーシアの工場でも日本の高品質なモノづくりを支える思想を現地の環境にフィットさせる形で、SSCコンセプトを導入しました。

生産「SSC(シンプル・スリム・コンパクト)」の展開

日本 ダイハツ九州

軽自動車に特化した
「シンプル・スリム・コンパクト」化を徹底追求

大分(中津)第2工場 ●稼働開始: 2007年11月
●建屋面積: 53,000㎡



インドネシア アストラ・ダイハツ・モーター(ADM社)

Just fit for Indonesia
SSCをインドネシアにジャストフィットさせた生産工場

Karawang Assembly Plant

●稼働開始: 2012年10月
●建屋面積: 73,000㎡



マレーシア プロドゥア グローバル
マニュファクチャリング(PGMSB社)

Transformation for Global Customer
国際競争力のある高品質工場

●稼働開始: 2014年8月
●建屋面積: 60,000㎡



◎ ダイハツのコトづくり

グループスローガン「Light you up」のもと、お客様や地域の方々との
接点拡大に重点を置いた「コトづくり」活動をグループ丸で推進しています。
その取り組みの一部をご紹介します。

「地域密着プロジェクト」

グループスローガン「Light you up」を体現する新たな
取り組みとしてスタートした「地域密着プロジェクト」。お客
様や地域の方々との接点拡大に重点を置いた「コトづく
り」活動の一環であり、社会課題の一つである「高齢化社
会」と「地域活性」に対し、ダイハツの強みを生かして課題
解決を目指す取り組みです。



理学療法士による
転倒予防指導、運動指導



JAF/ダイハツ販売会社による
安全運転講習会

具体的な活動としては、産官学民の連携により、高齢化
が進む地域社会で「いくつになっても自由に移動できる自
立した生活をサポート」していきます。

2016年度に試行を開始し、三重県、広島県、静岡県の
地域住民約100名の方々にご参加いただきました。2017
年度から本格的にプロジェクトを推進。2020年を目処に
全国的な活動に拡大していく予定です。

産

ダイハツグループ
「連携の場づくり」
(ダイハツの店舗)

官

自治体
「民の参画」を促す

学

理学療法士協会
「健康指導」で
地域を支える

民

地域社会
「自助・互助」を
目指す

地域密着プロジェクト

いくつになっても自由に移動できる
自立した生活をサポート

主旨に賛同いただいた方々と
連携し地域を支える



■モノづくり体験教室

ダイハツの社員が本社近隣の小学校に出向き、
モノづくりの楽しさや難しさを子どもたちに伝える
出前教室を2015年から実施しています。実物
の部品を「見て」「触って」「使って」体験できる教室
は人気を集め、今では年間100校を超える小学校
で開催しています。



体験教室の様子

■「ヒューモビリティワールド」

「ヒューモビリティワールド～人とクルマの発見
ワールド」は、クルマが人々の暮らしにどのように
役立っているのかを伝えていくための施設です。
歴代のダイハツ車をご覧いただけるだけでなく、
環境問題や安全性への取り組み、モノづくりの楽
しさに触れることができる様々な体験型装置を
設置しました。



ヒューモビリティワールド

■ダイハツ陸上競技部

1988年、スポーツ振興を目的に陸上競技部
を創設しました。陸上競技を通じて、人々に感動
と勇気を与え、スポーツの普及および振興に貢
献しています。



陸上競技部 ※2017年

■東京ディズニーランド®、東京ディズニーシー® オフィシャルスポンサー

ダイハツが目指す「世界中のお客様一人ひとり
が自分らしく、軽やかに輝くモビリティライフを広
げていく」という思いと、東京ディズニーランドと
東京ディズニーシーが目指す「あらゆる世代のゲ
ストが笑顔で楽しめ、ハピネスを感じることがで
きる場所を提供する」という思いが一致したこと
から、2017年よりオフィシャルスポンサーに参
加。東京ディズニーランド・パーキング、東京ディ
ズニーシー・パーキングと、東京ディズニーシーの
マーメイドラグーンシアターを提供しています。



調印セレモニーの様子

■バドミントンの普及・発展をサポート

主力地域である日本、インドネシア、マレーシ
ア3か国共通の活動として、バドミントンの普及・
発展をサポートしています。バドミントンは、イン
ドネシア、マレーシアの国技であり、東南アジアで
活発なスポーツです。「バドミントン日本代表」「パ
ラバドミントン日本代表」のスポンサーを務めると
ともに、3か国で開催される世界大会や、日本の
小学生向け大会などへの協賛も行っています。



バドミントン日本代表 新スポンサー発表会見
※2017年

◎会社データ

商号	ダイハツ工業株式会社 (DAIHATSU MOTOR CO., LTD.)
創立年月日	1907年(明治40年)3月1日
代表者	取締役社長 奥平 総一郎
主な事業内容	自動車の製造および販売
資本金	28,404,346,601円

国内主要事業所(関係会社含む)

本社／本社(池田)工場



滋賀(竜王)工場



ダイハツグループ 九州開発センター



京都工場



東京支社



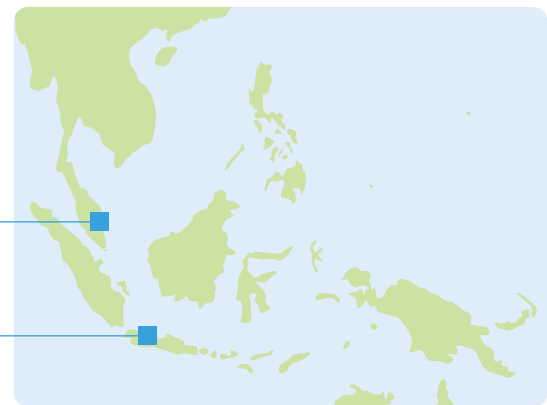
ダイハツ九州(株) 久留米工場



ダイハツ九州(株) 大分(中津)工場



海外の主な生産拠点



インドネシア／アストラ・ダイハツ・モーター



スンター工場



カラワン工場

マレーシア／プロドゥア



PMSB



PGMSB

本社
〒563-8651
大阪府池田市
ダイハツ町1番1号

東京支社
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町
2丁目2番10号
ダイハツビルディング

本社(池田)工場
〒563-8651
大阪府池田市
ダイハツ町1番1号

滋賀(竜王)工場
〒520-2593
滋賀県蒲生郡竜王町
大字山之上2910番地

京都工場
〒618-0081
京都府乙訓郡大山崎町
字下植野小字北細池
1番

西宮部品センター
〒651-1431
兵庫県西宮市山口町
阪神流通センター
1丁目78番1号

ダイハツグループ
九州開発センター
〒839-1206
福岡県久留米市
田主丸町吉本1番地2号

ダイハツ九州(株)
大分(中津)工場
〒879-0107
大分県中津市大字
昭和新田1番地

ダイハツ九州(株)
久留米工場
〒839-1206
福岡県久留米市
田主丸町吉本1番地

